

平成20年度総会開催 世界遺産登録の今年度推薦要請を見送り

5月29日(木)、鎌倉商工会議所ホールにて「平成20年度鎌倉世界遺産登録推進協議会総会」が開催され、本推進協議会の副会長である石渡徳一鎌倉市長から、鎌倉市が国に対して行う、ユネスコへの推薦要請を今年度は見送る考えであることが発表されました。



◎鎌倉の世界遺産登録推進事業の経過と今後の取り組みについて(石渡市長の報告要旨)

「これまで、鎌倉の世界遺産登録に向けては、平成20年度に文化庁へ推薦要請を行い、ユネスコの所要手続を経て、平成22年度に世界遺産登録をめざすというスケジュールに基づいて、準備作業を進めてきたところでございます。既に皆様もご承知のこととは存じますが、過日、世界遺産登録を目指す平泉に対して、イコモスが出した勧告は、「記載」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載決議」の4段階のうち、「記載延期」という大変厳しいものでした。この「記載延期」とは、記載のためには、より綿密な調査や推薦書の本質的な改訂が求められるものです。昨年の石見銀山のイコモス勧告も、今回の平泉同様、記載延期であったことにも見られるように、最近の世界遺産登録における審査は、段々と厳しくなっ

ているものと痛感しております。特に平泉は、鎌倉としても先進事例として学ぶところが多く、推薦書原案の作成など、大いに参考とさせていただいておりましたので、今回の結果は、改めて準備作業の難しさを感じ、また、重く受け止めているところでございます。こうした状況を踏まえ、文化庁とも綿密に協議を行い、7月に開催されるユネスコ世界遺産委員会の可否の行方を見守るとともに、その前提となるイコモスの勧告内容を十分分析、検討し、鎌倉が世界遺産登録を確実にを行うため、慎重な対応を図るべきと判断したところでございます。従いまして、文化庁との協議の結果、本年度中に行う予定であった文化庁への推薦要請を見送り、地元として要望していた平成22年度に登録目標は、困難となりましたことをご報告申し上げます。新たな目標年度につきましては、一刻も早い登録を望むことには変わりはありませんが、文化庁との協議が必要なことから、今後、決定してまいりたいと考えております。鎌倉の世界遺産登録に向けて、本日お集まりの皆様には、大変申し訳ないと思いますが、登録までの作業を万全に行うためと、ご理解いただきたいと思います。

鎌倉の準備状況は、他の候補地のどこよりも進んでいると認識しており、平泉の次は鎌倉です。早期の登録実現にむけて、引き続き努力してまいります。どうか皆様も、これからも変わらぬご支援をお願い申し上げます。」

世界遺産登録への思いを市民とともに 平山郁夫さんが推進協議会の特別顧問に就任

ユネスコ親善大使であり、鎌倉市名誉市民でもある平山郁夫氏が、本推進協議会の特別顧問に就任する旨石渡市長から報告がなされ、平山郁夫氏からは、次のコメントが寄せられました。

「多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、永久に平和都市であることを宣言しています。平和の祈りの絵を描き続けている私にとって、鎌倉の遺産が世界文化遺産に登録されることは、大変喜ばしいことです。こうしたことから、多くの市民の

方々が参加されている、鎌倉世界遺産登録推進協議会に特別顧問として加わり、皆さんと一緒に鎌倉世界遺産登録の実現を目指していきたいと思

います。」
これを受け石渡市長からは、「今後は、養老孟司会長及び、平山郁夫特別顧問のお力添えをいただきながら、鎌倉の世界遺産登録に向けた、更なる推進活動をお願いしたいと思います。」との発言がありました。